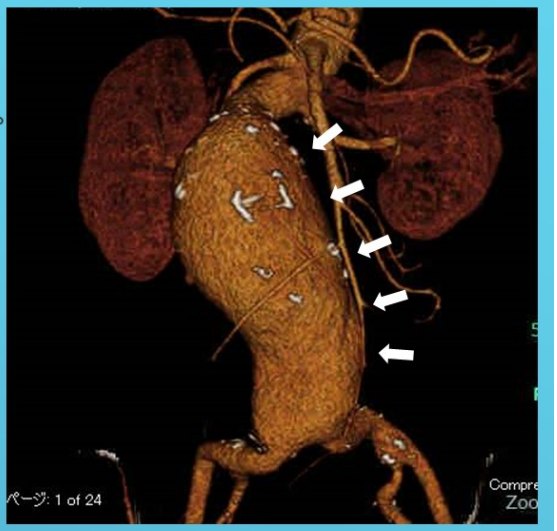
ご存知ですか？大動脈瘤という病気を。
ーある日突然に現れる　危険な症状ー

症状の出にくい大動脈瘤

大動脈瘤は、体の中の大きな血管「大動脈」がこぶ状にふくらんだ状態のことをいいます。ほとんど自覚症状がないため、知らない間に大きく膨らんでいます。特にお腹に大動脈瘤がある人は、腹部の拍動感に気づいたりしますが、肥満でおなかに脂肪がたまっていたりする場合は分からないこともあります。

一番恐ろしいのは大動脈瘤の破裂による大量出血で、これによって年間に多くの人たちが命を落としています。大動脈瘤は、もし破裂したらその死亡率は80～90%にも上るといわれています。



腹部大動脈瘤になりやすい人

大動脈瘤の発生には、動脈硬化が強く関係していると考えられていますが、それだけではありません。
さまざまな報告によると、男性は女性の5倍の有病率があり、特に60歳以上になると増加することがわかっています。また、喫煙習慣や高血圧、家族歴がある人も腹部大動脈瘤になる可能性が高いといわれています。

腹部大動脈瘤のリスク因子

- □ 高血圧
- □ 60歳以上
- □ 男性
- □ 家族歴
- □ アテローム性動脈硬化症の既往歴
- □ 喫煙者又は喫煙歴

気づきにくいので早期診断が重要！

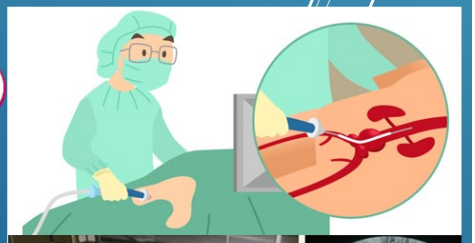
大動脈瘤は、小さいうちは無症状のため、健康診断などで胸部レントゲン写真を撮った時に偶然発見されることがほとんどです。

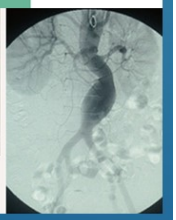
破裂する前に見つけるには、早期診断が重要です。

超音波検査・CT検査により確認できます。
気になる方はぜひご相談してください。
※大動脈瘤の正確な大きさを調べるには造影CT 検査、MRI（磁気共鳴画像）検査を行います。

大動脈瘤は、治療が必要です。（手術・ステントグラフト内挿術）

大動脈瘤に対して、最近ではステントグラフト治療というものがあります。
足の付け根辺りを約3-4センチ切開して、動脈にカテーテルを挿入し、瘤のあるところでステントグラフトを展開し、留置します。ステントグラフトが血管内に留置され、瘤に血液が流れるのをふさいで、瘤の破裂を防ぎます。
体への負担も軽く、入院期間が比較的に短い（手術後2～7日程度）のが特徴です。





ご相談　柏たなか病院　TEL.04－7131－2000　循環器科外来　藤崎正之